

第6．有馬離宮の朝は？

1．坂和は朝食のバイキングに張り切ったが・・・

(1) 最近はどこのホテルでも、朝食はバイキングと相場が決まっている。有馬離宮もそうだったが、天井の高い巨大なバイキング会場には、和洋中のおいしそうな料理がいっぱい並べられていた。バイキングの朝食となるとトコトン食べ、昼飯代とその時間をうかしてしまおうと考えてしまううえ、何ゴトにも1番が大好きな私は、莫言や毛丹青を部屋に残して私1人だけが一番のり。

(2) まずは自分が食べる分としていろいろな料理をお皿に取って食べながら、遅れてきた彼らのために豆腐なども準備していたが、2人とも中国人にしてはかなり上品な食べ方?(写真第6 -)なので、私は少し拍子抜け。とりわけ、莫言は身体がデカイし貧乏な農村の出身だから、おいしいものがあればつい食べ過ぎてしまうという私とよく似ているのかと勝手に思ったが、どうもそれは私の思い違いだったようだ。

2．朝食時の話題は、もっぱらアイパッド！

(1) 私が見たところ、莫言は自分から積極的にペラペラとしゃべるタイプではなく、質問をすればゆっくり考えながら丁寧に答え、説明するというタイプ。2008年3月に毛丹青と知り合い、はじめてのイベントとして同年4月に紹介された中国人作家・蘇童(ストン)とよく似たタイプらしい。それに対して、毛丹青はしゃべるのが商売(?)だから、いつもなんらかの話題を提供してくれる。そこで、朝食時の話題は、もっぱら「オフィスそのものだ」というアイパッドに集中した。

(2) 私は常々毛丹青のスケジュール管理能力に感心しているが、それは彼が手帳を持たず、すべて頭の中で管理しているため。そこで、私が「弁護士は裁判のための訟廷日誌が命綱。弁護士1年目からいつもこの手帳を使っており、これをめくれば 月 日に何があったかがすべてがよみがえる。この訟廷日誌がなかったら、とても覚えられない」と述べ、さらに「逆に書いてしまうと安心して忘れることができる。私は事務員に「覚えておけ!」と言って、「俺は忘れるぞ!」と言ってる。それはある意味で楽」と問題提起した。すると毛丹青は、「大きなミッションの話はメモしないと忘れる。20数名のミッションのときなどだ」、「ツイッターで書くと記録に残る。ミクシーも同じ。」と答えていたが、彼は頭の中の記憶だけで動きながら、何らのトラブルがないことは明らか。それを私なりに表現すれば、「電子手帳は昔からある。あんなものを使うのが早いのか。それとも ちょこちょこメモした方が早いのか。それとも、頭の中に入れた方が早いのか?」ということだが、結局毛丹青にとっては、頭の中

に入れるのが一番早いということは明らかだ。

(3) そんな状況下で今般毛丹青がアイパッドを購入したのは、決してスケジュール管理などという低レベルのためでなく、雑誌「知日」の編集作業などのためだが、そこで「アイパッドは一枚の板ではなく、オフィスそのものだ」という名セリフが。

3. 出発時間までの話題は？

(1) 朝食が終わって部屋に戻ると、毛丹青はまずはアイパッドのチェック。莫言が書いたものを、毛丹青の中国版ツイッター「微博」に載せると、たちまち反響が何千件もあるらしい。そんなアイパッドの画面を見せてもらいながら、坂和が毛丹青にいろいろ質問すると、自然に話はブログやツイッターそしてミクシーの利用法、活用法についての解説に。さらに毛丹青が示すアイパッドの画面には、毛丹青の研究室で学生たちと一緒に写した写真があったが、これは私の『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい!』の中国語版を出版するについて翻訳してくれた学生たちではなく、次の学年の学生とのこと。毛丹青のアイパッドからブログ、ツイッター、ミクシーで広く流れれば学生たちも楽しいはずだ。

(2) ちなみに後日談ながら、この有馬離宮でのアイパッド談義を契機として、私もツイッターやミクシーなるものをやってみようということになったから、毛丹青の影響力はすごいものだ。

以上